

取組の概要・効果（見込み含む）

概要：令和7年10月より国土交通省において生成AI「Copilot Chat」が利用可能となったことを受け、業務効率化および生産性向上を目的として、生成AIの基本的な操作方法から実践的な活用事例の共有までを内容とする所内勉強会（10月から12月まで毎月開催、延べ約80名参加）を実施した。

勉強会では、**職員が講師を務め、少人数形式で毎月複数回開催**を行うことで意見交換が円滑に行える環境づくりに配慮するとともに、参加者から寄せられた質問に丁寧に対応し、実践的な活用事例が共有できるようきめ細かな対応を行った。

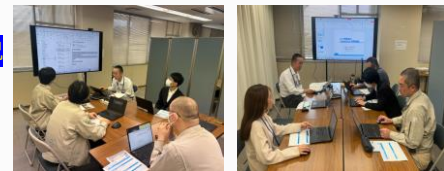
その後、令和8年1月に**所内アンケートを実施**した。

職員の効果：基本的な操作、プロンプトのコツ、具体的な業務例（文書作成・要約、検索補助、Excel操作等）、ハルシネーションや入力可能情報（機密性1情報）を説明し、安心して生成AIを使える内容とすることで、**4割弱の職員が業務の一部として活用している。**

所属の効果：属人的な取組にならないよう、全所属から勉強会に1名以上参加することで、**勉強会の内容を所属内で横展開した。**

事務所の効果：勉強会後に事務所全体アンケートを実施し、用途・効果等を定量的に把握し、その後の要望を聞き取ったことで、**次の取組につなげる改善サイクルを回す予定である。**

勉強会開催状況



勉強会資料抜粋



勉強会各月のテーマ

- 令和7年10月：Copilot Chatの基本的な使用方法
- 11月：活用事例デモ（メール下書き・画像生成・文字起こし等）
- 12月：エージェント機能・各所属ユースケース共有
- 令和8年1月：所内アンケート実施

取組前

Copilot Chatの導入当初の主な課題

- ・使い方や活用場面が分からない

- ・情報漏洩リスクや入力できる情報の範囲が分からない

- ・一部の職員だけに偏った取組にならないか

取組後（実施中含む）

所内アンケート（86名回答、回答率82%）により可視化された効果

①生成AIの利用が「試用段階」から「業務の一部」に動き始めた

現在の活用度は、積極活用：8人（9.3%）、時々活用：24人（27.9%）、試しに使用：30人（34.9%）で、「試し」層が多い一方、**4割弱の職員が時々以上に使用しており、定着の芽が見える。**

②「検索・文書作成」で時短効果が現れ始めた

主用途が、ネット検索補助：52人（60.5%）、文書（通知文・メール文案）作成：38人（44.2%）に集中しており、**実感効果のトップが、作業時間の短縮：47人（54.7%）である。**

③生成AIの「不安・課題」が可視化され、更なる対策が明確になった

「不安・課題」として、回答の信頼性：56人（65.1%）、情報漏洩リスク：40人（46.5%）、業務に適した使い方が分からない：29人（33.7%）の3つに集約しており、**改善ポイントが可視化された。**

職員の声

①効果を感じた声

- ・「**法令等の検索補助**。メール文のニュアンスを変えたい場合の案出しに使った」
- ・「**アンケート集計やExcel関数の相談**で、“この関数を入れればよい”と教えてくれた」
- ・「**事務所関連の新聞記事を文字起こし**する際に使用した」
- ・「**公表されているマニュアルの要旨をまとめる／メール文のチェック**に役立った」

②課題・要望の声

- ・「**（自分の業務に関する）活用事例の共有があると、真似して使ってみようと思う**」
- ・「**個人任せではなく、体系的なセキュリティ対策があると活用しやすい**」

Copilot Chat活用度	人数
業務で積極的に活用している	8
時々活用している	24
試しに使ってみた程度	30
全く活用していない・無回答	24

主な活用目的（複数回答可）

ネット検索の補助	52
文章作成（通知文・メール文案など）	38
イラスト・図の作成	20
アイデア出し・企画立案	17
Excel/VBAコード作成補助	11
議事録作成の補助	10
調査業務・資料作成の補助	9
データ分析・グラフ作成	3

Copilot Chatを使って良かった点（複数回答可）

作業時間の短縮	47
アイデアが広がった	33
調査や検索が効率化した	30
文書の品質が向上した	19